

Flying Wheelchair Supporters 国際ボランティア活動報告 in 台湾

内藤美穂¹⁾、石埜なつみ¹⁾、大川可奈絵¹⁾、山村安優美¹⁾、渡邊キララ¹⁾、泉本絵里¹⁾、伊里風音¹⁾、小池涼太郎¹⁾、小林海斗¹⁾、滝吉友香¹⁾、早坂彩菜¹⁾、本間圭太¹⁾、村山保¹⁾、前田雄¹⁾、須田裕紀¹⁾、東江由起夫¹⁾、大鍋寿一²⁾

- 1) 新潟医療福祉大学 Flying Wheelchair Supporters
- 2) University of Pittsburgh

【背景・目的】空飛ぶ車椅子プロジェクトとは、全国の約35校の工業高校を中心に、大学、ボランティア団体等の40以上の団体が一般の家庭や病院、施設等で使用されなくなった車椅子を回収・修理し、東南アジアをはじめとする発展途上国に届ける活動である。1990年に栃木工業高校でその活動が始まり、1999年に公益財団法人日本社会福祉弘済会が主管となりプロジェクトを進めている。その活動は、回収ボランティア、修理ボランティア、輸送ボランティア、現地ボランティアで構成されている。(図1)本学の「空飛ぶ車椅子サークル FWS : Flying Wheelchair Supporters」は当学科開設の2007年より当時の大鍋教授が中心となり発足したサークル活動である。現在では義肢装具自立支援学科を中心とした本学の学生1~4年生の総勢70名の部員が活動している。これまでに、国内外で回収、修理、輸送の活動を行ってきた。今回は2018年8月17日から8月21日にかけて、台湾にて実施された「空飛ぶ車椅子」プロジェクトの活動において、日本で修理した車椅子を送り、利用者や施設への寄贈と現地での修理会を行った。今回の活動を通して、空飛ぶ車椅子プロジェクトに参加する団体として、唯一、医療福祉に関する知識をもつ本学のサークルが担う具体的な役割と、今後の活動における課題と方向性を確認することができたので報告する。

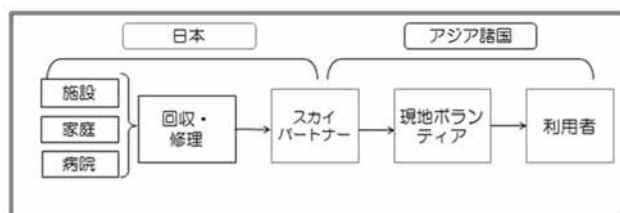


図1. 「空飛ぶ車椅子」プロジェクトの主な流れ



図2. 集合写真

【方法】今回の参加者・団体は、日本社会福祉弘済会1名、浮羽工業高校教員1名、神奈川工科大学10名、神奈川工科大学OB2名、新潟医療福祉大学13名(義肢装具自立支援学科11名・理学療法学科2名)、韓国人ボランティア1名、日本人ボランティア3名、台湾ボランティア6名、の総勢37名であった(図2)。渡航時に、全国の高校生やボランティアが修理した車椅子約27台を持参し、台湾へ届けた。輸送中の衝撃による破損が生じたため、現地で40台の点検、修理、調整を行った。

【結果】活動内容を下記に示す。

- 1日目: 老人福祉施設(弘道仁愛之家)にて車椅子の修理
 - 2日目: 老人福祉施設(翠柏新村)にて車椅子の修理
 - 3日目: 基隆士福祉機器資源センターにて車椅子の修理
- 各施設への車椅子の寄贈数は、弘道仁愛之家へ寄贈(6台)、翠柏新村へ寄贈(3台)、基隆士福祉機器資源センターへ寄贈(18台)であった。



図3. 車椅子修理の様子

【考察】今回の活動では、現地の老人福祉施設において約27台の車椅子の寄贈と合計100台以上の車椅子の点検、修理を行った。中には普段の生活で使用されている、車椅子の調整もあり、机上では学ぶことのできない車椅子適合の技術向上に繋がったと感じた。日本からの参加者に加えて、台湾や韓国の社会人ボランティアの方々も一緒に活動に加わっており、互いに交流を図ることが出来た。また施設を訪問した際は、どの施設からも歓迎を受けた。今回のプロジェクトでは、台湾の老人福祉の現状や制度についても知ることができ、とても貴重で充実した内容であった。

【結論】空飛ぶ車椅子プロジェクトにおけるFWSサークルの役割は、本学の特色である医療福祉の技術を活かした支援であり、車椅子・シーティングの適合技術に関する技術を通して、ボランティア活動を推進し、プロジェクトの発展に貢献したいと考える。

【謝辞】本プロジェクトは「公益財団法人日本社会福祉弘済会」「新潟県社会福祉協議会県民たすけあい基金助成事業」の支援を受けた活動である。